







平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】


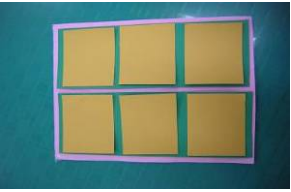
実施団体名【 北九州市教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第3学年 数量関係と文章題	
(2) 単元名 「何倍になるのかな」	
(3) 対象児童の実態 (1 人)	
C 児	第3学年 国籍(韓国) 母語(韓国語) 在籍年数(1年7か月)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 専任教員による日本語学級への取り出し指導は、現在週4時間程度である。平仮名と第3学年の現在までに学習した漢字は、ほぼ習得できている。片仮名は読み間違いや書き間違いが多い。文章を読んだり、文を書いたりすることには、まだかなり抵抗がある。吃音の傾向があり、在籍学級で友達と日本語でのコミュニケーションを取りにくい状況がある。落ち着いてはっきりと話すように指導中である。 ・算数科学習に対する関心・意欲・態度について 算数の計算力は、ある程度ついているが、文章問題は題意を理解できないために、解けないことが多い。特に、思考を要する問題に対して抵抗がある。 ・本単元に対するレディネス 本児童は、第2学年で加法の変量に目をつけて、まとめて考える問題を解く学習をしている。順に考えて解くことは何とかできるが、まとめて考えることは難しい。かけ算九九は、ほぼマスターできており、予めかけ算の問題であると認識している文章問題は、解くことができる。しかし、かける数とかけられる数を間違えて捉えることがあり、「○は△のいくつぶん」「○は、△の何倍」という表現の意味理解は、十分ではない。
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・変量に着目し、何倍になるかを考えて、問題を解くことができる。 ・a倍のb倍が$a \times b$倍になることが分かる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「○は、△の□倍」「△倍の□倍」という言い方に慣れる。 	

2 学習活動

指導者 帰国・外国人児童生徒専任教員			
全体の時間数 (1 時間)			
学習活動の状況, 指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
<p>1 本時学習のめあてをつかみ, 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーキ屋の場面の絵を見て, 場面を把握する。  <ul style="list-style-type: none"> ・2 要素 1 段階の問題を解き, 学習の見通しをもつ。 ・具体物を見ながら, 問題文 (3 要素 2 段階) の意味を理解する。 <p>2 自分の考えを図や式にかいて問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順に計算する。 ・関係図のかき方を知る。 <p>(3) 大は, 小の何倍になるか考え, 計算する。</p>	<p>取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に入る前に, 絵カードを使って, □倍の意味を確認し, 「×2」「×3」と表すことも確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ・問題文を一文ずつ提示して, 題意をしっかりと理解できるようにする。 ・大・中・小の箱の色を変えて, 理解しやすくする。  <ul style="list-style-type: none"> ・実際にケーキの箱を見せて, 求めるものの確認をし, 答えの見通しをもたせる。 ・具体物から半具体物・半抽象・抽象とスモールステップで具体物から抽象化された関係図の過程を丁寧に提示していく。 ・どうしてもよいか分からないときは, 線分図や箱の平 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教師が, 「○の△倍」と言い, それに合う絵カードを児童が取ったり, 教師がカードを見せて, 児童が「○の△倍」と答えたりした。児童は, ゲーム感覚で, 楽しみながら活動に取り組み, 日本語の表現に慣れることができた。  <ul style="list-style-type: none"> ◆ 複文を単文にして, 一文ずつ提示したことで, 児童は, 問題の意味を捉えやすかった。 <p>◇ 緑の箱には, 黄色の箱が 3 つ, ピンクの箱には, 緑の箱が 2 つ入ることを視覚的に捉えることができた。</p>   <ul style="list-style-type: none"> ◆ いきなり教科書の関係図を示すのではなく, ケーキの箱から大中小の□に変わり, 最後に同じ大きさの□を描き, その中に言葉を書 	

<p>3 練習問題を解く。 4 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・○倍の△倍という計算は、順に考える方法と図にかいて考える方法でとくことができる。 ・関係図をかくと分かりやすい。</p> </div> <p>5 学習をふりかえる。 6 次時の予告を聞く。</p>	<p>面図を見せて、考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変量に着目し、何倍かを考える方がよりよいことを、数値を変えた問題を通して実感させる。 ・線分図や関係図と結びつけて、考え方やその違いを整理して板書する。 	<p>き入れる。さらに、数量関係を考えて数字や矢印を書き込んでいくことで、関係図の意味をとらえることができた。</p>  <p>◇ピンクの大きな箱の中に、黄色の小さい箱がいくつ入っているか、図を見ながら考えさせると分かりやすかった。</p> <p>◇数値を変えた他の問題にも取り組ませることで、順に計算していくよりも、変量に着目して計算した方が簡単であることに気付くことができた。</p>
---	---	--

3 成果

①対象児童に対する成果

本児童は、文章問題に対しては、初めから考えようという意欲がなくなりかけていたが、具体物を使うことによって、考えるヒントを得ることができ、文章問題に対する苦手意識を少し軽減することができた。本時の学習では、かける数とかけられる数の違いをはっきりと理解することができ、「○は、△の何倍」という表現に慣れることができた。

②その他

在籍学級の担任が授業を参観したが、具体物を実際に見せたり、操作させたりする手だてを見て、在籍学級の学習が遅れている日本人の児童に対しても応用し、理解を助けたいという感想を述べていた。

4 課題

○具体物は、思考を助けるのに大変有効であったが、具体物から半具体物へ、さらに抽象的な思考へと移していく段階をどう見極めていくかが今後の課題である。本時では、具体物を用意していたにもかかわらず、具体物を使ってどれがどれの何倍になっているかをしっかり時間をとって理解させなかったために、途中で○倍の△倍を、 $(○ \times \triangle)$ 倍ではなくて、 $(○ + \triangle)$ 倍と勘違いしてしまう場面が見られた。

○本時の学習を児童は、全く新しいものとして難しく捉えてしまっていたので、児童のレディネスをしっかりと把握した上で、既習の学習と本時の学習を結びつけるような学習を組み立てていくことを今後さらに研究していく必要がある。

○効果的な指導をするためには、日本語指導担当者と学級担任との連携が大切であるが、忙しい中でどう工夫して連携していくかが課題となる。